

金沢市医師会地域医療連携システム (ハートネットホスピタル)説明会 【総論】

説明会

H25.8.26

【ハートネットホスピタルとは】

公益社団法人金沢市医師会が運営する、
病院と診療所、医師とコメディカルが連携するた
めの患者情報共有システムです。

施設間で患者さんの情報を共有し、より質の高い
医療及び介護の提供を目的としています。

【ハートネットホスピタル活用シーン】

- ・病院とクリニックが相互に情報共有するためのシステム
（病診連携を想定）
- ・医療機関とコメディカルが情報共有するためのシステム
（在宅医療を想定）

【ハートネットホスピタルの基本システム】

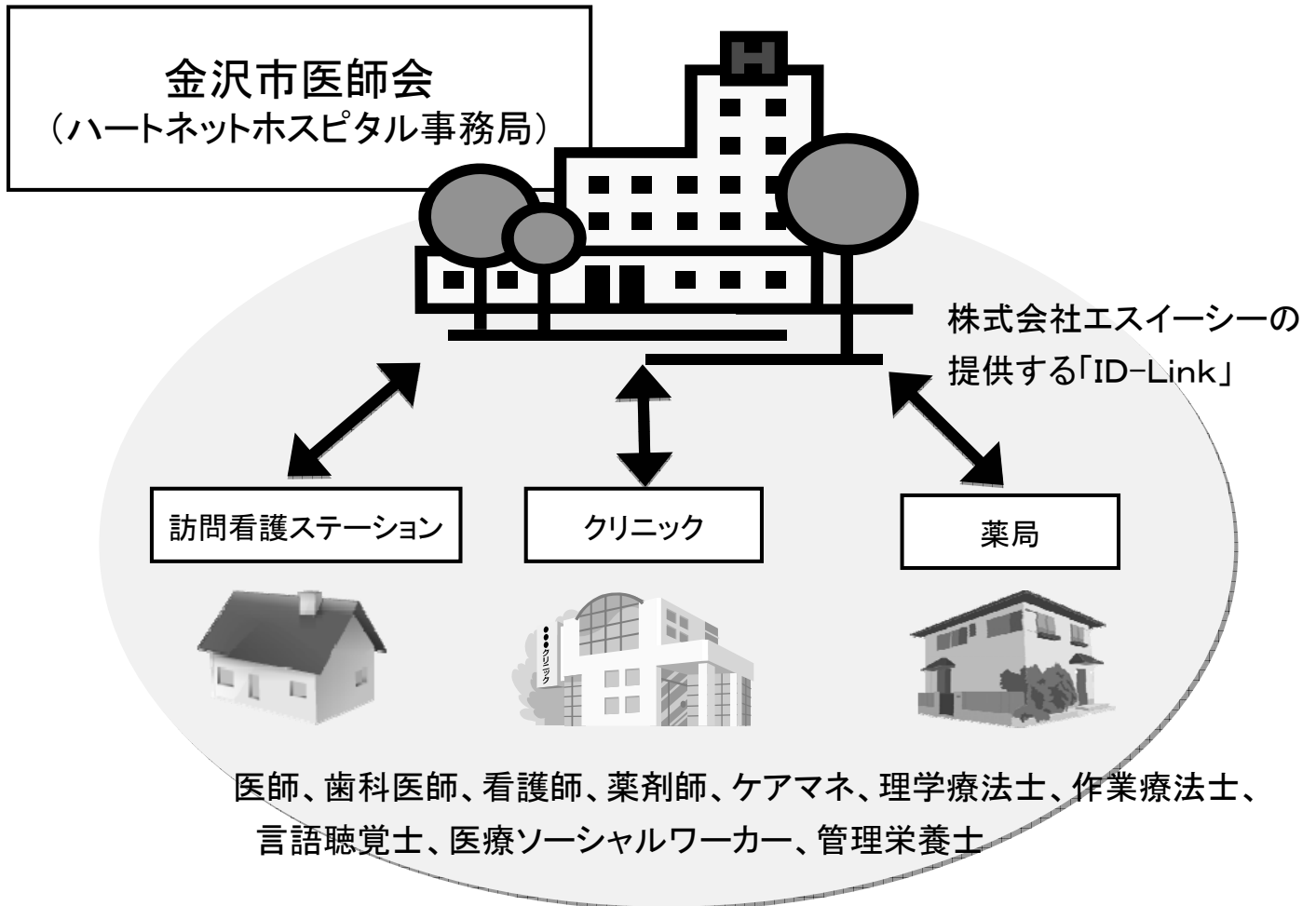
- ・インターネット回線を用いて情報共有します。

暗号化を施しているため、回線上から医療情報を取得することはできません。

- ・株式会社エスイーシーの提供する「ID-Link」
サービスを利用します。

情報閲覧は無料ですが、情報公開は情報公開サーバの設置と管理が必要です。

ハートネットホスピタル



同一医療圏にID-Linkを用いた 医療情報網を重複して立ち上げる全国初の試み

ハートネットホスピタル

利用者:

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、
ケアマネ、理学療法士、作業療法士、
言語聴覚士、管理栄養士、MSW
(二次・三次医療機関も含む)

- ・目的: 双方向での書き込みと閲覧
- ・在宅医療
- ・ターミナルケア
- ・慢性疾患の病診連携
- ・緊急時病診連携;EMS対応あり

他の医療情報ネット

・利用者: 主に医師

目的:

病病・病診連携
高度医療情報の提供
情報は1対Nで主に1方向

金沢大学附属病院のシステム「たまひめネット」は？

元々の「ID-Link」サービスは、情報公開病院が連帯する診療所の医師に医療情報を公開する仕組みでした。

診療所への情報の流れは、一方向の報公開システムで、1対Nの関係です。

まだ協議中の県のシステムは？

・県が構築し、県医師会を中心に協議中の石川県診療情報共有システムは、情報公開病院を一つから複数に増やし、N対Nのネットワーク化が目標のシステムです。

・現在までの論議では、診療所に対する情報の流れ自体はまだ一方向的です。

あなたが今後出来る事は？

- ・情報公開用サーバがあれば、情報公開が困難な医療機関・診療所も情報公開が出来ます。その情報発信機能により、様々な活用方法が生まれます。
- ・金沢市医師会は、架空の情報公開病院をサイバー空間に設立しました。これがハートネットホスピタルです。
- ・この病院は、医師だけではなく多職種が参加できます。
- ・患者さんを中心にして、多職種が相互に情報交換が出来ます。

【参加資格】

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー

※金沢市医師会会員が所属する施設以外が参加される場合は、会員の紹介と審査が必要です。

【費用】

無料（利用施設及び患者さん）



まとめ

ハートネットホスピタルでは、ある患者に携わるコメディカルを含む医療関係者が利用者となります。

全員で情報を書き込み・閲覧を行い、その医療情報の共有が目的です。

情報の流れはN対Nの関係となり、情報の流れは双方向です。

ID-Linkという同じ仕組みを利用しているため、画面上のたまひめネットとハートネットホスピタルの操作に違いはなく、違和感なく利用できます。

なお、たまひめネット利用時にはたまひめネットのルールに従い、ハートネットホスピタル利用時はハートネットホスピタルのルールに従ってご利用ください。